

八戸ダムだより

第4号 平成18年12月
 島根県浜田県土整備事務所
 八戸ダム管理所
 TEL:(0855)92-1361
 FAX:(0855)92-0907

問い合わせ
 せ・質問
 などは…

八戸ダムの情報インターネット(島根県河川課)

<http://www.pref.shimane.jp/section/uryousui/menu.html>

県内各地の雨量、河川水位、ダム諸量情報
 を知りたい方はこちらにアクセス

洪水期終了 (10月1日から非洪水期に)

八戸ダムでは、一年を洪水期(6月16日～9月30日)、非洪水期(10月1日～6月15日)に区分して管理しています。非洪水期は、洪水期に比べてダムの貯水位が115m～123m程度と満水に近い状態です。この期間は、短時間にまとまった雨が降ることが少なく、しとしと降る秋の長雨などの流入により、ゆっくりと貯水位が上昇していきます。洪水期のように大雨による規定水位を超えるような放流はほとんどありませんが、季節はずれの台風の接近や春先の急激な気温上昇による雪解けなどにより、やむを得ず放流することもあります。放流時には、ダム下流の水位が急激に上昇しますので、放流を開始する際のサイレンや放送に注意していただき、河川内は特に危険ですので、立ち入らないようご協力をお願いします。特に小さなお子さんには日ごろからのご指導をお願いいたします。

フラッシュバック 7月豪雨

7月中旬の7月豪雨は、近年まれに見る大雨で、江の川の上流(広島県側)でまとまって降った大雨に江の川支川からの流入が加わり、江の川下流域は国道261号スレスレまで水位が上昇しました。川戸地区、小田地区、市山地区、谷住郷地区を始め、下流域の多くの地区で田畑や市道の一部、また家屋等が浸水する被害となりました。被害を受けられた方にはお見舞い申し上げます。八戸ダムでは、この7月豪雨の放流を含め、今年の洪水期間に計7回の放流を行いましたが、特に事故等もなく、無事安全に放流できたのは、ダム下流域にお住まいの方々や河川利用者の皆さんにご協力いただけたことに尽きると思っています。八戸ダム職員一同これからも気を引き締めて安全な放流に努めますので、引き続き皆様方の更なるご理解とご協力をお願いします。

今年の洪水期中の放流状況は

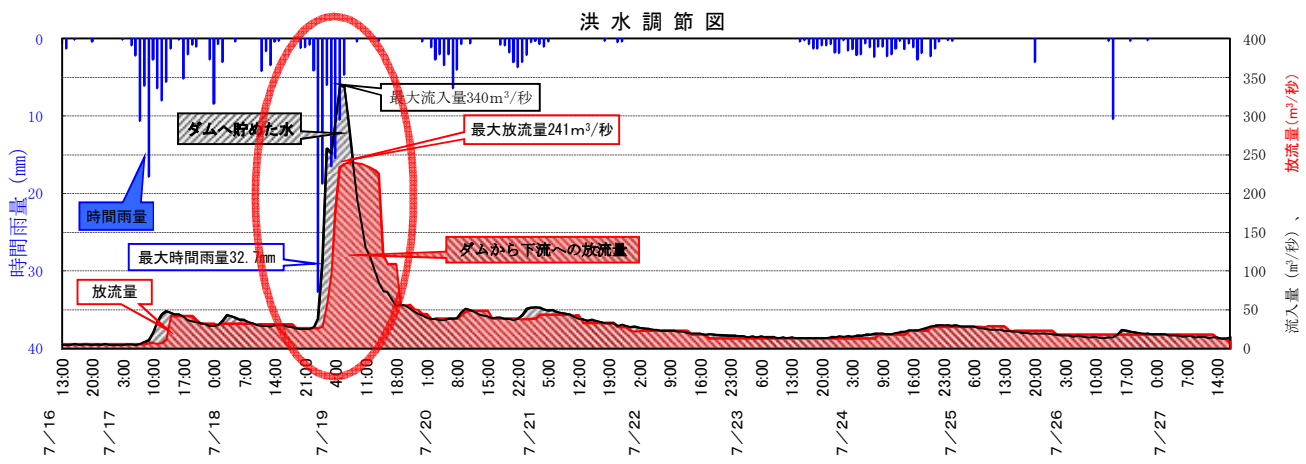
ちなみに、去年の同時期は…

放流日	放流目的と最大放流量
6/22～6/23	水位調節 最大約43t/毎秒 6/22大雨洪水警報 総雨量77mm
6/26～6/27	水位調節 最大約34t/毎秒 6/25大雨洪水注意報 総雨量
7/2～7/3	水位調節 最大約60t/毎秒 7/1大雨洪水注意報 総雨量85mm
7/5～7/6	水位調節 最大約28t/毎秒 総雨量
7/9～7/11	水位調節 最大約73t/毎秒 7/8大雨洪水警報 総雨量45mm
7/17～7/27	洪水調節 最大約241t/毎秒 7/17大雨洪水警報(7月豪雨) 総雨量309mm
9/18～9/19	水位調節 最大約59t/毎秒 9/16大雨洪水注意報 総雨量 58mm

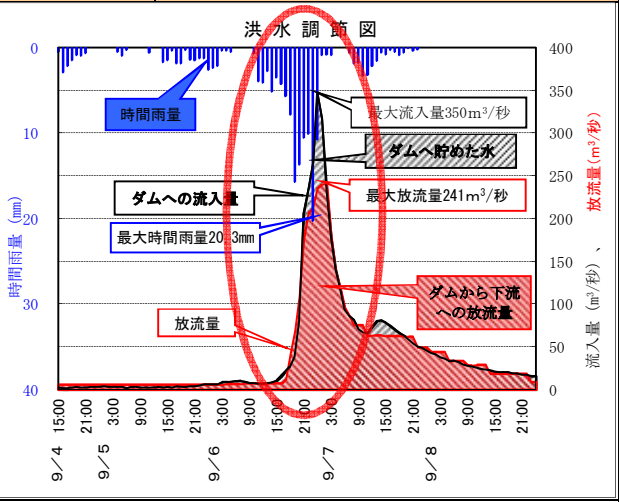
放流日	放流目的と最大放流量
6/26～7/1	渇水対策 最大約3.9t/毎秒
7/3～7/5	水位調節 最大約51t/毎秒 7/1大雨洪水注意報 総雨量181mm
7/12～7/12	水位調節 最大約28t/毎秒 総雨量21mm
7/13～7/14	水位調節 最大約25t/毎秒 7/13大雨洪水注意報 総雨量26mm
7/15～7/16	水位調節 最大約39t/毎秒 7/15大雨洪水注意報 総雨量35mm
7/31～8/1	水位調節 最大約60t/毎秒 7/15大雨洪水注意報 総雨量81mm
9/6～9/8	洪水調節 最大約241t/毎秒 9/6大雨洪水警報、台風14号 総雨量174mm

雨量（時間雨量）と放流の関係について

今年 2006年 7/16~7/27 総雨量295mm 最大放流量約241t/秒 7/17大雨洪水警報（7月豪雨）



去年 2005年 9/4~9/8 総雨量185mm 最大約241t/秒
9/6大雨洪水警報、台風14号



各ダムでは、ダム毎に放流規則を定めて放流を行っています。八戸ダムでは、八戸ダムの放流規則により、【一定率一定量調節方式】で洪水調節の放流を行っています。表ページに今年と去年の放流状況は載せていますが、放流量200t/秒未満（緑表示）をダムの水位調節、放流量200t/秒以上（オレンジ表示）をダムの洪水調節に区分し、放流ゲートの操作を10分間隔で行い、放流しています。水位調節は、ダム下流の水位を急激に増加させないよう、放流量50t/秒までは5tずつ、放流量が200t/秒まで50t/秒ずつ増加する毎に7、10、15t/秒と段階的に放流します。放流量200~330t/秒の洪水調節は、流入量が200~720t/秒の時には直前の流入量を基に計算した量を

放流します（＝一定率放流）。流入量720t/秒以上になると、330t/秒を放流し続けます（＝一定量放流）。上に二つの洪水調節図を載せていますが、一番上は今年の7月豪雨、その下は去年の台風14号のものです。雨の降り方の違いで放流期間の長さが変わりますが、どちらもダム流域に時間雨量10ミリ以上の雨（＝お風呂のシャワー程度）が数時間連続で降ったため、ダムに入り込む水量が急激に増加し、ダムの貯水位が指定水位（＝通常時に貯水して良い上限水位）を越えるため、200t/秒以上の洪水調節を行いました。どちらも最大放流量が約241t/秒ですが、この時の流入量がたまたま同規模になったためです。

編集後記



今年の洪水期は、八戸ダム流域内では、梅雨や前線の停滞により、長雨による放流を度々行いました。時には深夜に放流を開始し、深夜のサイレンや放送で下流住民のさんにはおやすみ中のところ、大変ご迷惑をおかけしました。今後も深夜からの放流にご理解いただき、ご協力下さい。

また、今年の台風は大きな直撃がなく、台風の影響による放流がなかったことは幸いです。ところで、5~7月の日照時間の少なさの懸念が8月以降は一転、農作物の出来もまずまず、11月に入り気温は平年以上で白菜大根はおでん・鍋などの需要が少なく大量処分だとか。さて、近頃は朝方の冷え込みも一段と厳しくなり、ダム周辺の山々も冬支度へとその姿を変えつつあります。今年は暖冬とのうわさも…そろそろ冷たい北風の到来です。風邪には十分ご注意を！